

令和 8 年度の学校評価

本年度の重点目標	<p>安心・安全な魅力ある学校を確立するために、家庭や地域、企業と連携を図りながら教職員が一体となって推進する。また、生徒や保護者の夢を形づくるなど、3年間の学びを通して、広い視野と社会性を備えた生徒の育成や地域から愛される学校を目指す。</p> <p>(1) 生徒が思いやりをもち、互いの個性を尊重し、協力して行動できる道徳的実践力を備えた人材育成を推進する。</p> <p>(2) 基本的な生活習慣や挑戦する心の育成と生徒主体の生徒会活動の充実を図る。</p> <p>(3) 地域イベントや職業に関する体験的活動を活用し、生徒の学びの機会を広げ、勤労観・職業観を育成する。</p> <p>(4) 基礎・基本を大切にしたスモール・ステップを踏む授業、ICT を活用した個別最適な学び、主体的・対話的で深い学びを実践する協働的な学び等、生徒の学習意欲を引き出す授業改善に努める。</p> <p>(5) すべての教科等において、インクルーシブ教育の充実のために研修等を推進し、教職員の資質能力の向上と指導や支援の充実を図る。</p> <p>(6) 生徒の教育活動や学校行事の様子を、家庭や地域社会に向けて積極的に発信する。</p> <p>(7) 教職員の業務改善に向け、業務を分担できる協働体制をつくり、職員のワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境を整えていく。</p>		
項目	重点目標	具体的方策	留意事項
総務部	<ul style="list-style-type: none"> ・ P T A 諸活動を通し、保護者に学校生活を開かれたものにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校行事のみならず、各種会議や P T A 活動へ積極的に参加していただけるように魅力的な内容に改善する。 ・ 情報発信を円滑にかつ広く行き届かせるため、e メッセージアプリの登録を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保護者の意見を多く反映して、P T A 活動を計画して進めていく。 ・ 保護者会などを通して多くの方に登録を促す。紙媒体での連絡から e メッセージアプリのみの連絡に移行する。
教務部	<ul style="list-style-type: none"> ・ インクルーシブ教育充実の推進を図る。 ・ I C T を活用した個別最適な学び、主体的・対話的で深い学びを実践させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保健厚生部等と連携を図り、教務内規の見直しを行う。 ・ 外部機関や I C T を活用し、基礎学力向上と学習習慣の確立、定着を図る。 ・ 授業公開期間等を活用し、教職員の資質能力の向上と指導や支援の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業改善を図り、定期考査重視の評価方法ではなく、小テストや課題など評価できる観点を増やし、スモール・ステップで評価する。 ・ 教職員で情報を共有し、授業や評価方法をアップデートすることを心掛ける。
図書部	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習センターとしての機能を持った図書館の充実を図る。 ・ 教員の教科指導力向上のための研修を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 魅力的な図書館のディスプレイや生徒が読みたいと思う新刊図書を整備する。 ・ 授業公開期間を設定し、中堅教諭研修者だけでなく、多くの教員が研究授業をできるようにする。また、保護者授業見学会を開催することで、教員の授業力の向上につなげる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 限られた図書購入費の中で、魅力ある新刊図書の購入を行う。また、生徒にとって居心地のいい空間になるよう工夫をする。 ・ 授業公開期間には、多くの教員が研究授業を行ったり、参観したりできるようにする。
生徒指導部	<ul style="list-style-type: none"> ・ ルールやマナー遵守と規範意識（モラル）の確立を図る。 ・ 5 分前登校の徹底と交通事故、交通違反の減少を図る。 ・ 生徒間トラブルの早期発見と適切な対応を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校生活を通じて、ルール、マナーの意義を知り、それらを遵守することの大切さを理解させる。 ・ 生活習慣を整えさせ、時間に余裕を持った登校をさせることで、事故や違反を減少させる。 ・ 些細な生徒の変化を見逃さず、積極的に声掛けを行っていく。また、生活アンケートの情報にも丁寧に対応し、生徒に寄り添った指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒の規範意識向上に全職員で一丸となって取り組むとともに、地域や家庭と連携を深めていく。 ・ 生徒の家庭状況や生活環境を理解し、適切な指導、助言を行う。 ・ 生徒連絡会での情報共有に加え、教員間の連携を密にして組織的な生徒指導を行う。

項目	重点目標	具体的方策	留意事項
特活部	<ul style="list-style-type: none"> 生徒主体の生徒会活動の充実を図る。 福祉、ボランティア活動への取組を通して、他者を思いやる心と社会人基礎力を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会執行部および専門委員会の役割を明確にし、生徒が主体的に企画・運営できる体制を整える。 地域の福祉施設、自治体、ボランティア団体と連携し、実践的な活動の機会を確保する。また、学校行事や委員会活動と関連付け、継続的に取り組める活動内容とする。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の主体性を尊重しつつ、活動が形骸化しないよう教員が適切に助言する。 校則・安全管理・公平性の観点から、学校としての最終確認を行う体制を維持する。 福祉活動の目的を事前に明確にし、「やらされ感」のない学習的な取組とする。
進路指導部	<ul style="list-style-type: none"> キャリア教育を推進し、正しい職業観・勤労観を育み、生徒の進路選択、進路実現の支援に努める。 選科の実施に当たり、生徒の将来設計を考えた選択ができるように努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 学年会と学科を中心に関係職員との連携を深め、情報提供および情報交換を密にし、連携した進路指導を目指す。 生徒との面談・相談を充実させることで、就職・進学におけるミスマッチの解消を図る。 選科を実施するにあたって、学年会、学科主任、家庭科主任、工務主任と協力して、生徒の将来設計に対し、できる限りミスマッチが無いようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 事業所見学や企業説明会を通して、職員がキャリア教育に生かせる情報が得られる機会を設定する。 来校した企業、大学、専門学校の面談情報等は、関係分掌と情報共有を適切に行い、情報発信に努める。 選科について、情報発信と面談時間を確保し、学科の特色とともにキャリア教育の一環として進める。また分かりやすい資料作成や情報提供を行う。
保健厚生部	<ul style="list-style-type: none"> 安全で清潔な環境整備に努め学校全体で取り組む体制を整える。 基本的な生活習慣の確立と自主的な健康管理が行えるようにする。 個に応じた支援体制を築く。 	<ul style="list-style-type: none"> 教員と生徒がともに日々の清掃活動への意識を高め美化・整備に努める。 健康観察や感染症予防、けが防止など保健指導を通して、自己管理の意識向上を図る。 教育相談及び支援が必要な生徒の情報の共有化と早期の対応を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 美化委員会、保健委員会の活動を通じて、生徒発信で環境整備、健康意識を高めるようにする。 個別の健康相談や教育相談を充実させる。 現職研修の実施やスクールカウンセラーや専門機関との連携を図る。
工務部	<ul style="list-style-type: none"> 技能検定や資格取得、各種競技会への参加を促し、生徒の学ぶ力と意欲向上を図る。 各種競技会の結果、資格取得などの成果を中学生や地域に情報発信する。 	<ul style="list-style-type: none"> 資格や検定試験の案内を作成し、資格取得や技能修得に対する意識を高める。 情報化推進委員によるインスタグラム更新を促進し、学校外への情報発信に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 学科と連携して、ジュニアマイスター顕彰受賞を目指す生徒の増加を図る。 情報化推進委員を活用し、インスタグラム更新方法の講習会を行い、積極的に情報発信ができるように努める。
機械科	<ul style="list-style-type: none"> 安全第一を掲げ、安全教育を行い、安全意識の向上と安全作業の定着化を図る。 進路実現のために、様々な学習や体験を通じて勤労観や職業観を養うことで学習意欲を向上させる。 校外への情報発信の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 実習の点呼時に全体で安全意識の向上を図る。また、各実習ショップで実習前にリスクアセスメントを行う。 企業見学や地域イベントへ積極的に参加し、生徒の勤労観や職業観の形成を促進する。 中学校訪問、校外活動、SNS などを通じて、校外への情報発信を積極的に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 指導者マニュアルの改善意識を持ち、新たな視点による危険リスクの発見に努める。また、各実習ショップにおける作業安全の共有化を進める。 校内外の各種イベントにおいて、生徒を中心とした活動を行うとともに、学年に応じたガイダンスや現場見学を実施し、キャリア教育の充実を図る。 SNS を利用し、校外活動やイベントにおける生徒の活躍を校外へ情報発信する。

項目	重点目標	具体的方策	留意事項
電子工学科	<ul style="list-style-type: none"> 安全を意識した作業の定着を図る。 進路実現のために、様々な学習や体験を通じて勤労観や職業観を養うことで、専門分野への学習意欲を向上させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 見直しを加えた実習系のテキストを活用して安全指導を徹底し、実習に伴う危険予知トレーニングを行う。 企業見学や外部講師を活用し、勤労観や職業観を養うことで、進路実現に向けて専門分野への学習意欲を向上させ、学力の向上を図るとともに、資格取得に向けた提案やサポートを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 作業に取り掛かる前に実習テキストに記載されているリスク見積表を活用し、安全指導を十分に実施する。 各作業において安全作業に努め、生徒からのヒヤリ・ハットの情報を教員間で共有し、改善に努める。 各学年に合わせた資格・検定の提案・受検啓発を実施し、高校3年間で計画的に資格取得を行えるようにする。
建築デザイン科	<ul style="list-style-type: none"> 安全を意識した作業行動を定着させ、日常的な安全意識の向上を図る。 多様な学習活動や体験的な取組を通して、勤労観、職業観の育成を支援する。 大学等と連携した教育活動を展開し、学習意欲の喚起と進路選択の幅の拡充を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 実習開始前にリスクアセスメントを行い、安全マニュアルを活用した指導を徹底する。 企業と連携した技能体験会や現場見学会を実施し、勤労観・職業観の形成につながるキャリア教育を推進する。 大学・専門学校の講師による出張授業や、ICTを活用したオンライン授業を計画的に実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 実習開始前には、安全に関する具体的かつ詳細な注意事項を生徒に十分説明する。 多様な企業と連携を通して、建設業への理解を深め、生徒の興味・関心を高めるよう工夫する。 出張授業やオンライン授業の実施にあたっては、生徒の学習意欲の向上につながる内容となるよう配慮する。
環境科学科	<ul style="list-style-type: none"> 進路選択実現のために生徒自ら努力する姿勢作りを支援する。 資格、検定取得の充実を図る。 作業を伴う教科における、安全教育、安全作業の定着を図る。 校外への情報発信の充実を図る。 ワーク・ライフ・バランスを配慮した職場環境の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 職場見学、社会人講師の講話などを通じて、進路考察やキャリア教育を実施する。 資格、検定の指導体制・補習を充実させる。 リスクマネジメントの推進と安全マニュアルに基づく作業の徹底をする。 中学校訪問、校外活動などを通じて、校外への情報発信を積極的に行う。 学科内の業務分担の適正化を進め、協働体制を構築する。 	<ul style="list-style-type: none"> 進路選択につながる内容を選択し、生徒のキャリア教育を充実させる。 教員が資格を取得するなど、教員の資質向上とともに指導方法を確立する。 安全チェック項目を確実に指導し、ヒヤリ・ハット事例を生徒と共有して、安全対策を図る。 校外へ発信する情報を精査し、より伝わりやすい内容にする。 学科全員で仕事に取り組める環境をつくる。
3年学年会	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣の定着と社会人基礎力の向上を図る 進路実現に向けてのキャリア教育の推進を行う。 リーダーの育成を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 欠席・遅刻数の減少など、5分前行動を習慣づけ、時間を守り、自己管理ができる生徒を育成する。 考え抜く力、チームで働く力、実行力など社会人として必要な能力の向上を図る。 自己分析や、企業や進学先の理解・研究をし、進路実現のための機会を設ける。 最高学年として、部活動や学校行事などに積極的に参加し、主体的に動き、他学年とも協同して物事を動かすことのできる人材の育成を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 時間を守る、挨拶、身だしなみ、返事、整理整頓など、できるまで粘り強く指導する。 部活動や資格取得などで努力を成果に繋げ、達成感や自己有用感を高める。 進路指導部や学科と連携し、自己理解を深め、企業や進学先の理解・研究を進める。 部活動や学校行事、資格取得、ボランティア活動など、校内外における様々な活動の意義を伝え、積極的に参加する雰囲気を作る。

項目	重点目標	具体的方策	留意事項
2年学年会	<ul style="list-style-type: none"> • 基本的な生活習慣の定着と授業規律の確立を図る。 • 進路実現に向けてのキャリア教育の推進を行う。 • リーダーの育成を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> • 5分前行動を徹底し、STや授業等へ余裕のある参加を習慣化する。また、自ら率先して挨拶を行うことを意識づける。 • 授業中の姿勢や発言を見直し、落ち着いた学習環境づくりを意識づける。 • 自己分析を通して、自身の特性や興味関心がある分野を把握し、将来の姿を具体的に思い描けるようにする。 • 進路実現に向けて必要な行動や学習内容を自ら考え、計画的に取り組む姿勢を育成する。 • 学校の中核を担う学年として、部活動や学校行事等に積極的に参加させ、主体的に行動できるリーダーを育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> • 生徒一人ひとりの生活リズムや授業の様子を的確に把握するとともに、学年として指導方針を共有し、共通理解のもとで継続的な支援を行う。 • 進路指導部や学科と連携を図りながら、生徒の進路選択に関する取組状況を継続的に把握し、適切な助言およびフォローを行う。 • 生徒の特性や得意分野に応じて役割を与え、負担が偏らないよう配慮しながら成長を支援する。
1年学年会	<ul style="list-style-type: none"> • 基本的な生活習慣の確立を図る。 • 工科高校生としての自覚を持たせ、進路実現へ向けた目標設定をさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> • 5分前行動や自ら率先して挨拶を行うことを意識づける。 • 授業開始前の教材準備と着席を徹底し、落ち着いて授業に取り組ませる。 • 各教科学科と連携を図り、授業や提出物の取組状況を共有する。 • 資格取得や部活動、学校行事、ボランティア活動などに目標をもって取り組ませる。 	<ul style="list-style-type: none"> • 円滑な対人関係を築くためにも時間を守ることや挨拶の重要性を確認させる。 • 教室環境の整備も含め、授業を大切にする雰囲気をつくる。 • 職員間の報告・連絡・相談を徹底し、生徒一人一人を見守り支える。 • 資格取得や諸活動の意義を理解させ、積極的な参加を促す。
学校関係者評価を実施する 主な評価項目	<ul style="list-style-type: none"> • スクール・ポリシー「三つの方針」について • ICTを活用した個別最適な学び、主体的・対話的で深い学びを実践する協働的な学びの推進 • インクルーシブ教育の充実に向けた取組の推進 • 校内外への教育活動等の積極的な情報発信 		